

平成22年度施政方針(抜粋)

「だれもが安全・安心に暮らせるまちづくり」

- 「第2次京田辺市男女共同参画計画」の策定
- 市北部地域に新たな保育所を整備
- 風水害等に備え、JR 三山木駅高架下に市南部地域水防倉庫を整備
- 「京田辺市バリアフリー基本構想」の策定
- 市役所に専門の相談員を配置して相談日の拡充を行うなど、消費生活相談の窓口を充実

「快適で活力に満ちたまちづくり」

- 市南部の拠点にふさわしい街並みの形成に向け、三山木地区特定土地区画整理事業を推進
- JR 京田辺駅の東側と西側に大規模な駐輪場を整備
- 住宅用太陽光発電システム設置費用の一部を補助
- 「ごみ処理施設整備基本計画」の策定
- 市内事業者を利用して行う自宅・店舗のバリアフリー化工事に係る費用の一部を助成

「心にうるおいのあふれるまちづくり」

- 田辺公園プールの改修工事
- 「放課後子どもプラン(京のまなび教室)推進事業」を市内全小学校に拡充
- 小・中学校施設整備計画に基づき、校舎の耐震改修等大規模改修を実施
- 学校給食調理業務の民間委託
- 「京田辺市スポーツ振興計画」の策定

固 ゴミ焼却は広域をめざせ

固 当面は単独で計画

民主党 議員団
(米澤 修司 議員)

①ごみ処理施設整備基本計画の策定を主要施策としているが、市単独でのごみ焼却場建設は、建設費だけでなく、将来の運転経費も考えなくてはならない。他の自治体と連携して広域でのごみ焼却をすべきだと考えるが、市長 現在の焼却施設の耐用年数は平成28年度までとなっている。建設期間を考慮すれば早急な

専門委員会として委託実施校ごとに委託業務評価委員会において検証する。検証結果に基づき、業者への指導・監督を行い、改善されない場合は契約破綻に至るケースはあるが、民間委託計画全体の見直しは想定していない。③3000万円の市民要望実現枠が設けられた



平成28年度に耐用期限を迎える甘南備園焼却施設

が、要望についての検討取捨選択は担当部署のみで行うのか、ワークショップなど市民参画の工夫をしながら進めるのか。副市長 市民要望実現予算は、市民生活に密接し緊急性の高いものを想定している。市長が中心となり、現地現場主義にたつて庁内の審査会で迅速に結果を出す形ですめる。

固 観光案内板設置を

固 今後設置について検討

公明党
(櫻井 立志 議員)

市民の満足を得たい。②市役所の活性化と市民サービスの向上について、市長の考えは、市長 職員自らが研さんに務め、自身の意識改革が重要である。今後も人材育成基本方針を徹底し、適正な研修を進める。③高齢化社会における安心・安全について、建設部長 高齢者や障がい者が自立して日常生活や社会生活を営むことができる環境整備を図るため、22年度にバリアフリー基本構想を策定し、取り組みを進める。安心まちづくり室長

④第二京阪道路の全面開通後の都市整備について、市の取り組みは、建設部長 本市の北部地域の道路交通の状況は大きく変化する。府と協同して、北部地域道路網検討協議会を2月に設置し、供用開始後の見直し等を踏まえ、渋滞緩和策や関連する生活道路の整備等

の検討を進めたい。⑤第二京阪道路の京田辺パーキングエリアに観光案内板や京田辺らしいモノコメントなどを設置し、広く本市をアピールしてはどうかと考えるが、経済環境部長 施設自体の用途も考えた上で、看板等の設置ができるか検討していきたい。



第二京阪道路に開設された京田辺パーキングエリア(松井山手)

固 行財政改革の取り組みを

固 新たな計画の策定が必要

新栄会
(小林 喜代司 議員)

①平成18年度から実施された第3次京田辺市行政改革大綱に基づく京田辺市行政改革実行計画及び京田辺市財政健全化計画は22年度が最終年度である。5年間で479件の実行プログラムを計画されているが、各部局別の進捗状況は現在協議・進行中の事項、また、実施されなかった事項等がある。これらの未実施の項目と現在、本市のおか



平成18年に策定された第3次京田辺市総合計画

ることが困難な状況になっている。引き続いて23年度から京田辺市行政改革大綱を策定され、行政改革実行計画及び財政健全化を立ち上げて取り組む必要があると思うが、市長 景気の急激な悪化により市民生活が一段と厳しさを増す中で、受益者負担や補助金の見直しなど、取り組みを計画期間内に予定どおり終え

目標達成に取り組んでいくが、景気が好転する見込みがない状況の下では、厳しい財政状況が続くものと考えられ、新たな計画の策定が必要になってくる。

②近鉄興戸駅西側の防賀川の整備については本市、JR、近鉄、京都府、

地元区自治会、同社等との関係者で協議、検討を重ねられているが近鉄興戸駅は同志社大学京田辺キャンパスの最寄り駅であり、乗降客も非常に多い。本市として十分な対応、協力、支援が必要であると思うが市の考えは、建設部長 市民参画を基本として約26名の方々の参加で4回ワークショップを開催した。その結果、歩行者、自転車の通行を優先し、緑地帯等を配置した、自然あふれる緑のあるまちづくりを基本とした、駅前機能を有する道路の整備や緑の広場、遊歩道等を整備する提案をいただいた。これを踏まえて計画を策定していきたい。